

# 洋風食器の開発

藤 靖之・川久保 正行

現在、肥前地区の陶磁器産業は、低迷の一途をたどっている。主な製品は業務用和食器であるため、近年のリゾート関係・外食産業の不況のあおりを受けていることが大きな原因の一つだが、景気回復以前に、日本人の住空間、家族構成、食生活等の変化により、洋食器の使用頻度が高まったのに対し、和食器の使用頻度が減少し、需要が漸減しているのが現状である。

一方で、肥前地区製品は「伊万里・有田焼」に代表される高いブランドイメージを誇っており、このイメージを支えてきた技術・デザインを活用することで、高い競争力を持った新商品開発が可能であると考えられる。

本研究は、以上のような背景から、肥前地区に伝承された技術・デザインを再構築し、新しい時代の生活感に合った、洋風食器の開発を目的とした。

## 1. はじめに

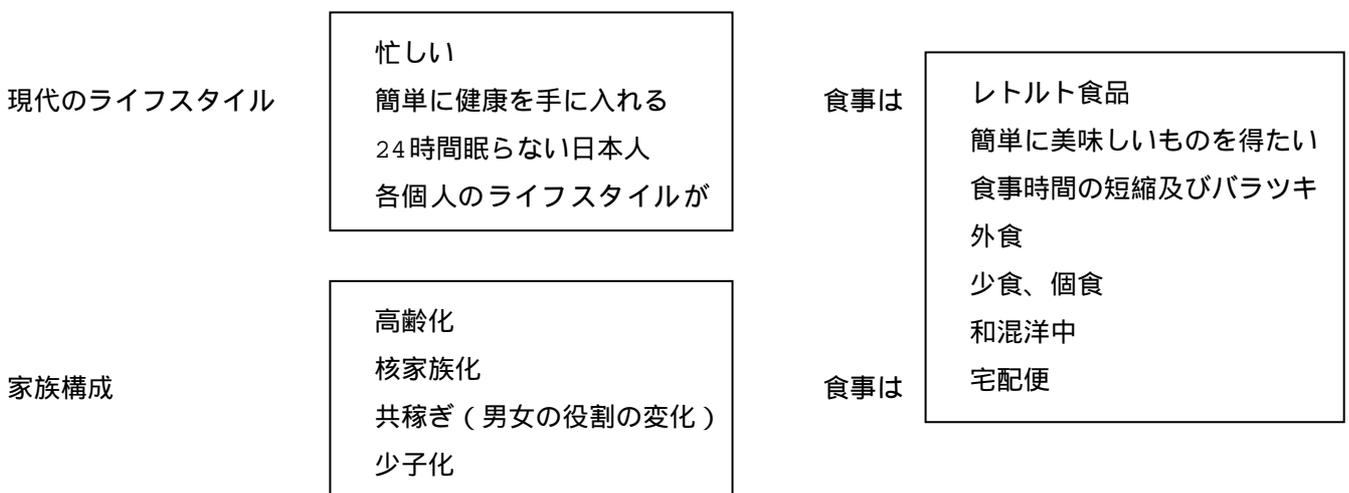
有田焼は、法人企業の需要や団体旅行などのレジャー産業に支えられてきたが、現在他産地による商品の模倣や低価格による過当競争、そして又海外の洋食器や中国、東南アジアなどの低価格商品の氾濫する中、有田焼の方向性が案じられている。

本来、有田焼の不況の最大原因は、生活スタイルの多様化と個性化の時代、伝統柄の和食器から脱却できず、市場性のある商品を提供できなかった点に

あると思われる。しかし、一方では次第に伝統産業としての、工業製品にはない手作り感のある商品が消費地で見直されて来ているのも事実であるが、すでに、磁器や陶器の区別もつかない次世代に有田焼ブランドを活用した、従来の食器にとらわれない洋風使いの商品など多彩な商品開発が必要とされている。

## 2. 研究開発の企画

### (1) 新しいライフスタイルに対する伝産地有田の提案（日本人の食器開発・・・一般家庭用）



住空間

高齢化  
核家族化  
共稼ぎ（男女の役割の変化）  
少子化

コンパクト

キーワード  
現代人は、食は  
**カンタン**に

**(2) キーワード・カンタンに対応する食器とは**

カンタン食器とは

カンタンに洗え、カンタンに収納  
カンタンに何でも盛れる  
カンタンに誰でも使える  
カンタンに美味しく見える

カンタン食器の形状は

積み重ねが良く、コンパクトで、フラット  
料理を選択しない（和混洋中）  
スプーンから箸まで  
フラット、チョット深め レトルト食品に向く

チョット深め  
フラット  
多用途  
**形状**

**(3) 現代人の食生活でのカンタン必要食器アイテム、伝産地の物作り**

新しいライフスタイル

自分のスタイルを見つめ、  
本当に必要なアイテムを見極めて

**写真 1**

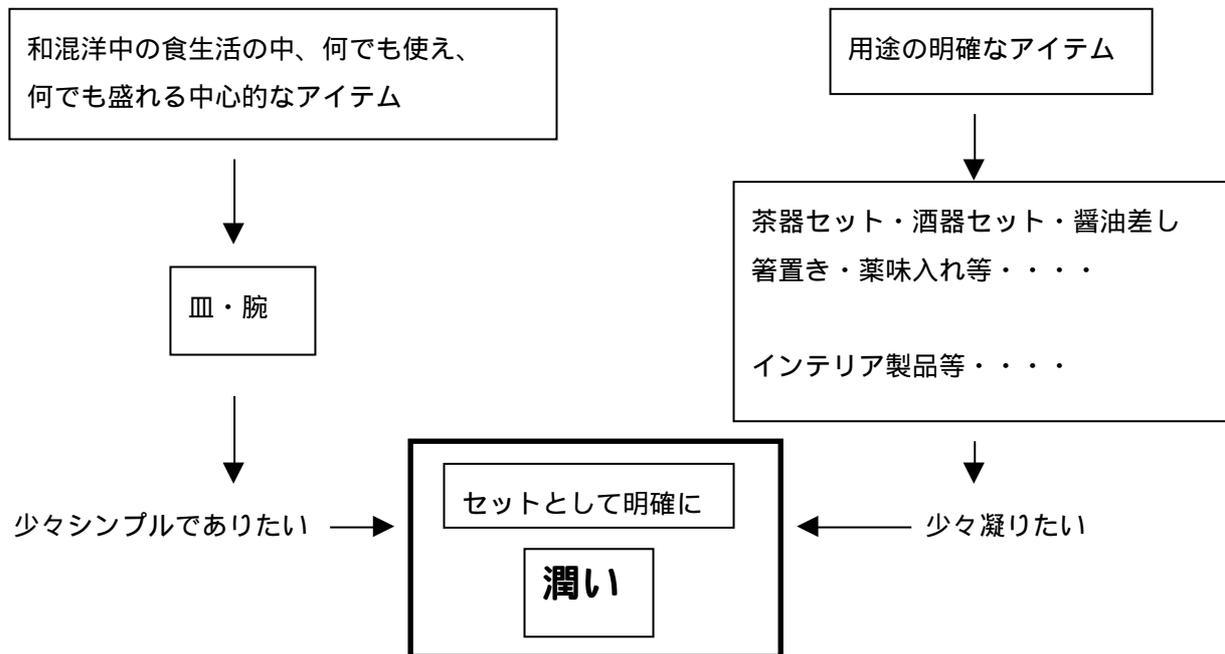
提供

伝産地の物作りへのコンセプト

人々に・癒し・潤い・ゆとり・安らぎを  
知的・文化的欲求の対象として  
コミュニケーションの媒介として  
生活の中での創造性の素材

**カンタンからシンプルライフ**

#### (4) 新しいライフスタイル(シンプルライフ)への有田焼提案の基本手法



### 3. 試作品

和食をテーマにした形状

コンセプトをもとに昨年度、鉢(25cm)、平皿(25cm、18cm)ボール(18cm)、深皿(15cm、11cm、10cm)、ポット(10×10cm)、マグカップ(8×9cm)、コーヒーカップ(8×7cm)、湯呑み(8×9cm)、飯碗(11×6.5cm)で皿、鉢については、リム付きとリム無しの2種類製作した。

成型方法としてポットは排泥鑄込み、その他は機械ろくろで成型した。また陶土に於いては、天草撰中及び配合陶土の2種類を使用した。



洋風食器セット



リム付き及びリム無し平皿

加飾として、平成12年度佐賀県陶磁器工業組合活路開拓事業に於いて、陶交会の開発グループと東京の生活提案型の雑貨店十数件を調査。その提案傾向として、ナチュラル、カジュアル、シンプルが主流であった。、これらを明確にイメージできる色釉(貫入釉)を中心に釉の開発を行った。



写真 4

ナチュラルをテーマにした釉



写真 5

カジュアルをテーマにした釉

洋食をテーマにした形状

今回、浅皿（7インチ、11インチ）、深皿（7インチ、11インチ）、（スープ皿（8インチ）、ボール（6インチ）を試作した。

成形方法としてローラーマシンで成形した。陶土は、天草撰中及び配合陶土の2種類を使用した。



写真 6

浅形洋食器セット



写真 7

深形洋食器セット

加飾としては、天草陶土使用の食器については、釉彩を行った。方法としては、生地に薄く白釉を掛け、素焼後撥水剤入りの色釉で加飾。その後、白マット釉を施釉。加飾として、13パターン行った。

白マット釉調合

益田長石	42%
朝鮮カオリン	11%
合成藁灰	21%
炭酸バリウム	26%
ジルコン	8%

釉彩用釉調合

大平長石	17%
天草陶石	41%
珪石	12%
炭酸バリウム	30%

上記基礎釉に酸化金属を加え、色釉を調整。

緑釉	酸化クロム	0.1%
ベージュ釉	酸化チタン	1%
ルリ釉	珪酸鉄	0.6%
	酸化クロム	0.06%
	酸化コバルト	0.03%

配合陶土については、昨年度テストしたナチュラル、カジュアル感のある釉薬、化粧土を施した。焼成は天草、配合陶土ともSK10還元炎にて焼成した。

配合陶土用基礎釉調合

益田長石	89%
石灰石	10%
ベンゲル	1 %

上記の釉に

緑 釉	酸化クロム	0.1%
ベージュ釉	酸化チタン	1%
ルリ釉	珪酸鉄	0.6%
	酸化クロム	0.06%
	酸化コバルト	0.03%

各加え、三種類の色貫入釉を調合した。

化粧土については、デグサ顔料を加え、三種類の色化粧土を調合した。

色化粧土の調合

緑	天草陶土	100
	緑顔料	8

茶	天草陶土	100
	茶顔料	8

青	天草陶土	100
	青顔料	8

加飾として釉薬、釉薬と化粧、釉薬と化粧と染付等の組合せで 26 パターン行った。

和食をテーマにした食器の釉薬による加飾



写真 8



写真 9



写真 10

和食をテーマにした食器の釉薬と色化粧土による加飾



写真 11



写真 12



写真 13

洋食をテーマにした食器の色化粧土による加飾



写真 17

和食をテーマにした食器の釉薬と色化粧土と呉須象嵌による加飾



写真 14



写真 18



写真 15



写真 19

和食をテーマにした食器の釉薬と色化粧土と染付による加飾



写真 16

洋食をテーマにした食器の釉薬と色化粧土による加飾



写真 20

写真 2 1

写真 2 5

写真 2 2

#### 4 . 展示会

有田 STYLE ・集いのかたち展

会期 2002年3月2日(土) ~ 3月10日(日)

会場 エルガーラホール 7階ギャラリー

平成 13 年度佐賀県陶磁器工業協同組合中小企業  
活路開拓調査・実現化事業に於いて、試作品の展示  
を行った。

釉彩による加飾

写真 2 3



展示会風景

写真 2 4



センター試作品

第 17 回有田陶交会九陶年次展・集いのかたち展  
会期 2002年 3月 19日（火）～3月 24日（日）  
会場 佐賀県立九州陶磁文化館

## 5 . おわりに

今回、コンセプトに対し、和食、洋食をテーマにした形状及び加飾を試みた。また、展示会にも出展した。来年度の展開として、シンプルをコンセプトに形状、加飾の展開をしていく。